

「母子健康手帳等に関する意見を聴く会」

NPO法人せたがや子育てネット
代表理事 松田妙子

NPO法人せたがや子育てネットについて

- 2004年NPO法人格取得 主に世田谷区にて活動
- 世田谷区・・・人口92万人、年間出生数約7000人
- 5支所にわかれて子育て世代包括支援センター設置

地域子育て支援拠点に併設の地域子育て支援コーディネーター（利用者支援基本型）が5支所ごとに1カ所配置され、子育て世代包括支援センターのシステムに加わっている。

せたがや子育てネットは4カ所の地域子育て支援拠点と3カ所のコーディネーター事業を運営。

うち1つは中間支援センターとして、他法人と法人・担当エリアを越えてネットワークすることで、全域をフォロー。

2020年NPO法人せたがや子育てネット 主な実施事業



● 区民版子ども子育て会議



● 地域子育て支援コーディネーター (利用者支援基本型子育て世代包括支援センター)

身近な場所で
予防的な
相談事業・資源開発

中間支援センター

烏山・玉川



● おでかけひろば【4カ所】 (地域子育て支援拠点事業) 区内団体と実践交流・ネットワー クを構築しつつ運営

ぶりっじ@roka

(南烏山)
まーぶる (瀬田)
すぷーん (深沢)
おりーぶ (奥沢)



● せたがやこどもフードパントリー

2020年4月14日からの2021年5月29日
までに、73日間175回の活動を通じて
のべ12800食以上を提供。



● 人材育成

- * ファミリーサポートセンター
アドバイザー研修
- * フォスタリング機関 里親研修
- * 世田谷区一時預かり補助
- * 保育サポーター養成

● 赤ちゃんをつれて学校へ行こう！

区立中学校3年家庭科、
都立高校定時制へ
地域の1歳までの
赤ちゃんとその家族と
共に訪問
「ティーンエイジャーに
赤ちゃんを抱っこする体験をプレゼント」



● 産前産後のセルフケア講座

対象：妊婦と産後5か月未満の産婦

内容：赤ちゃんの抱っこ、ストレッチ等の
講習、あわせて地域の情報を提供し、
身近な場所での
相談につなぐ



● 地域共生社会にむけての 多分野との連携・中間支援

- * 生活サポートNPO等協議会
- * せたがや防災NPOアクション
- * 外あそびプロジェクト・せたがや

● 情報提供

- * メルマガ耳寄り情報
- * 多胎児むけメルマガ
- * LINE@等各種SNS
- * FMせたがや情報提供番組

● スポーツ財団主催講座託児

母子健康手帳への期待

- 親となる、なった人が子どもを育てるにあたって
ひとりで「頑張る」目標や目安ではなく

妊娠・出産にあたって、医療者と関係機関はもちろん、地域の人たちがサポートすることを約束し、そのサポートのため、あなたを理解をしたいために親子の状況と状態を共有することを目的に記録していくものであることを伝えたい。

仕様について

- ・サイズの統一

全国でまちまち。転勤先で出産している等で入手した自治体によりサイズが異なり、きょうだいで違うため管理しづらい

- ・紙質を変えてほしい

長年保存に向いていない。紙が薄く、すぐ破れる、にじむ、折れる等

- ・インデックス等がついているとよい（ページの端が色分けされている等）

- ・多胎児や低体重で出生した児向けなどはつukれないのか

出産に関する記録

- 1か月と、3-4か月の間に、産婦の心身の状態をたずねる問診があるとよいのでは。
- 痛い、しんどいなどのマイナートラブルを記入することで本人が自覚したり、周りが気が付くきっかけとならないか

子育てに関する記録①

- ・アレルギー検査の結果を記入、ないし、貼り付け欄が欲しい
(アレルギーと限定せずにも、「その他の検査結果」とか)
- ・質問の「はい」「いいえ」の順番が入れかわるのが答える側に違和感があり誘導的
- ・歯の記録は、月齢ごとのページに飛び飛びに記録されてしまうので、表みたいなものにも記録スペースがあるとよいのでは

子育てに関する記録②

- ・ 焦りを生む記載内容について再検討してほしい

6か月で「おすわりができますか」という記載が、無理な「練習」をさせることにつながっている

「相談する人はいますか？」などの質問に「いいえ」をつけていく落胆感。ではどうしたら？につなげてほしい。

(地域子育て支援拠点へのつながりの情報)

情報提供の中身に関して①

- 記載内容の順番

「すこやかな妊娠と出産」の項目は冒頭でもよいのではないか

- 成長発達の概要

今は、チェックリストが折々についていて時期の目安を知るだけ。むしろ焦りにつながっている。

発達の見通しがたつ、子どもが育つみちすじについて書いてあるとよい。個人差があるということ、発達を飛び越えた関わり（おすわりが自分で獲得できる前に座らせてしまうとか）は不必要であるといったこと。

また、不安があるときにどう相談したらよいか（どこに、だけでなく）

情報提供の中身に関して②

- ・抱っこについての記載を追加してほしい

新生児のカラダに負担がないやり方（新生児の首を支えない縦抱きへのアラート、足が落ちてしまわないサポート等）

出産後の身体の状態でも腰痛予防ができ、手首が腱鞘炎になりにくい方法。

かかわりやあやしかたに不安がある保護者でも、抱っこで位置を工夫できるとアイコンタクトがとれ、アタッチメントをうながす。

子育ての文化研究所[AKAGO] 参照

情報提供の中身に関して③

- ・ 妊産婦の身体のセルフケアやメンテナンスに意識をむける
出産までの身体づくり、産後のセルフケアなどは現代の出産にとっても必要。
- ・ 父親にも記録するページがあると自分事になっていくのでは
- ・ パートナーシップ、出産とキャリアについては夫婦で理解する
- ・ 祖父母のページが分冊版などでついてくるのはよい
- ・ 教えて！ドクターに書かれている中身が参考になる
- ・ 母体の健康管理の機能と、子育て中の伴走する記録や情報の機能がセットになっているためむずかしいが、シングルファーザーでも必要なこともふまえる。
- ・ 予防接種の記録などは、むしろ10代になってから求められるので、あらかじめ記録の重要性を伝えておく

手帳の使い方、手渡し方への提案

- **母子健康手帳を今後どう使っていくかのプログラムとセットで**

地域子育て支援拠点で「みんなで母子健康手帳をじっくり読んでみよう」

「母子保健バッグの中身を確認しよう」といったプログラムがあると、関心が深くなり、伝えたいことが伝わる。

- **地域子育て支援拠点に来所した際の記録の枠をつくる**

上記のプログラム等で地域子育て支援拠点に出向いたときは

ハンコやシールを貼る欄が欲しい。

実際の乳幼児親子の様子をみて、あやしかたやこどものいる暮らしのイメージづくりなど、積極的に地域とつながる場につないでいくしかけが必要